

研究ノート

老年看護学実習指導における教員と臨床指導者の役割に関する一考察

木村 暢 男

日本福祉大学 看護学部

One consideration about the role of a teacher and clinical leader in the elderly person nursing science training

Nobuo KIMURA

Department of Nursing, Nihon Fukushi University

Keywords : 老年看護学実習, 教員, 臨床指導者, 役割

1. はじめに

看護学教育における臨地実習は、学内で学んだ知識・技術を実際の現場で自らが体験することを通して統合し、さらに看護者としての態度を修得していく場である¹⁾。そして、看護学実習を効果の高い学習としていくためには、学生が実習で体験し感じたことを意識化すると共に言葉に出して表現し、意味づけをしていくことが大切である。そのためには、学生が患者の辛さ、苦しみ、思いを、自分の目で見、耳で聞き、肌で感じる体験を教員や臨床指導者が支援することが必要になる。さらに、学生を看護チームの一員として位置づけ行動ができるように支援する、患者理解のための分析力や統合力を育むために実習記録やカンファレンスの活用を支援する、実習グループのグループダイナミクスを活用する、多くの成功体験ができるように支援する等の教育的関わりが必要になる²⁾。臨地実習では、教員と臨床指導者が、協働して実習指導を行うことになるが、学生が行っている実習に関して、教員が気づき指導が必要と感じていることと、臨床指導者が気づき指導が必要と感じていることには、

重複している部分と重複していない部分、また、教員と臨床指導者の双方が気づいていない部分がある。重複する部分に関しては、教員と臨床指導者の双方から指導が行われ、学生に過度な負担を強いたり、混乱を引き起こす可能性がある。また、教員と臨床指導者の双方が気づいていない部分は指導が行われず、学生の学習が不十分になる可能性がある³⁾。そのため、教員と臨床指導者は、事前の実習指導における責任と役割を明確にし、日々コミュニケーションを取りながら、役割を確認し、調整していく必要があると考えられる。

そのような状況の中、近年、老年看護学実習に関して、臨床指導者を対象とした研究が見受けられている。その中には、臨床指導者は「学校の教員と実習施設の臨床指導者との間で、実習の目的・方法が統一されていない」、「教員との関わりが難しい」、「学校の教育方針と臨床指導の間での葛藤がある」等、学校と連携した教育に関して困難感を抱え、悩みながら臨床実習指導を実践していることが示唆されている⁴⁾⁵⁾⁶⁾⁷⁾。その背景には、老年看護学実習において、教員と臨床指導者の役割分担が明確に

されていない現状がある。特に老年看護学実習は、認知症高齢者や脳血管疾患を持つ高齢者など、コミュニケーションが難しい患者を受け持つことが多いこと、多くの疾患を持つ患者が多いため病態の理解が難しいこと、身体機能の低下などのため援助に多くの看護技術を必要とする患者が多いこと等の理由により、学生が計画的に実習を進めていけるような細かな配慮が必要とされるため、教員と臨床指導者との連携と役割の明確化は、実習指導における不可欠な要素である。役割を明確にすることにより、教員と臨床指導者の指導の方向性の不一致、臨床指導者の教員との連携に関する葛藤などが解消され、学生の目標達成に向けて効果的な実習指導が行われる可能性があると考えられる。

本研究においては、まず、老年看護学実習における、教員と臨床指導者による学生指導の機能を明らかにする。その上で、教員と臨床指導者の指導の役割を明確にし、学生が実習目標を達成するための効果的な教員と臨床指導者の協働の在り方を検討したいと思う。

2. 用語の定義

(1) 教員

大学の老年看護学実習において、学生の実習指導を行う大学教員

(2) 臨床指導者

老年看護学実習を行う実習施設において、学生の臨床指導を行う看護師

(3) 学校

4年制大学の看護学部

3. 研究方法

(1) 調査対象

一般病院の臨床指導者5名（老年看護学実習の指導経験がある臨床指導者）および大学看護学部の4年生5名（老年看護学実習の履修者）

(2) データの収集期間

2014年2月～3月

(3) データの収集方法

インタビューガイドに従い、1対1の半構造化面接法を用いてデータを収集した。面接時間は、一人当たり30分程度とした。面接は、概ね以下の項目に従って行

い、対象者の自由な「意見」や「思い」を引き出すために半構造的に実施した。

臨床指導者への質問項目

- ・基本属性（年齢、看護師経験年数、臨床指導者としての経験年数、臨床指導者としての研修受講の有無）
- ・老年看護学実習において、臨床指導を担当して良かったと思えること。
- ・老年看護学実習における臨床指導者の役割。
- ・老年看護学実習における教員の役割。
- ・教員との役割分担に関して判断がつかないことや悩むこと。
- ・教員への希望や要望。
- ・老年看護学実習における臨床指導者として取り組みたいこと。

学生への質問項目

- ・基本属性（年齢、学年）
- ・老年看護学実習において、教員から指導を受けて勉強になった、良かったと思えること。
- ・老年看護学実習において、臨床指導者から指導を受けて勉強になった、良かったと思えること。
- ・老年看護学実習における教員の役割。
- ・老年看護学実習における臨床指導者の役割。
- ・教員と臨床指導者のどちらに相談したらよいか迷ったこと。
- ・教員への希望や要望。
- ・臨床指導者への希望や要望。

(4) データの分析方法

臨床指導者と学生へのインタビュー内容は、老年看護学実習における学生指導の機能を抽出するために、質的帰納的手法で分析した。具体的には、インタビュー内容の逐語録を作成し、その記述文を複数の要素が含まれない意味あるまとまりに区切ってコード化し、近親性を基にサブカテゴリーを抽出した。そして、内容に近親性のあるサブカテゴリーをまとめてカテゴリーを生成し、命名した。インタビューでは、教員と臨床指導者それぞれの役割について聞いたが、どちらとも区別がつかない内容の回答が多かった。そのため、まず、インタビュー内容から「老年看護学実習における実習指導の機能」が語られている箇所を抽出し、カテゴリー分類を行った。そして、その老年看護学実習における学生指導の機能のカ

テグリー分類を基にして、「主に教員が担った方がよい役割」、「主に臨床指導者が担った方がよい役割」、「分けることが難しい役割」を抽出し、整理した。

(5) 倫理的配慮

実習施設の管理者ならびに臨床指導者、および4年制大学看護学部の学生に、研究の目的、方法、研究協力への参加・協力の自由意志および拒否権、個人情報保護、研究結果の公表方法、研究中・終了後の配慮について説明し、研究承認書および参加同意書への署名をもって同意を得た。特に、学生に対しては、インタビューにおける発言内容は、学生の成績評価に全く影響しないことを口頭で説明した。なお、本研究は三重県立看護大学の倫理審査を経て実施した（通知書番号：132905）。

4. 研究結果

(1) 研究対象者の属性

臨床指導者

性別は全員女性、年齢は29～45歳、看護師としての経験年数は8～25年、臨床指導者としての経験は1年半～10年、臨床指導者としての研修は4名が受講していた。

学生

年齢は全員22歳の女性であり卒業間近の4年生であった。

(2) インタビュー内容の分析結果

臨床指導者のインタビュー内容の分析

分析の結果、25のサブカテゴリーから6つのカテゴリーが生成された。以下、カテゴリーを〔 〕、サブカテゴリーを 〃 で示す。

サブカテゴリー 学生・教員・臨床指導者のチーム形成、学生のチームワーク支援、学生と臨床指導者の関係づくり、学生と患者・家族の関係調整、実習の雰囲気づくり は、実習における学生・教員・臨床指導者・患者および家族の関係づくりを進め、実習を円滑に促す支援に関する内容であり、この5つのサブカテゴリーから、カテゴリー【関係性の構築】が生成された。サブカテゴリー 学生と他職種との連携支援、個々の学生の性格・特徴の把握と共有、教員と臨床指導者の実習目的・指導方針の共有、教員と臨床指導者の連携促進、教員の指導後の臨床指導者の関わり、実習記録の指導における教員と臨床指導者の連携、継続看護への関

わり は、教員と臨床指導者、学生と看護師および看護師以外の他職種との連携を促進し、学生への教育効果を高めよりよい看護実践を促す内容であり、この7つのサブカテゴリーから、カテゴリー【連携の促進】が生成された。サブカテゴリー 実習開始時における学生への患者に関する情報提供、実習時間外で得た患者情報の提供、患者の観察の視点の指導、学生の気づきへの支援 は、学生が担当した患者の状態把握ができ、より個別性の高い看護実践ができるように支援する内容であり、この4つのサブカテゴリーから、カテゴリー【患者の状態把握に向けた支援】が生成された。サブカテゴリー 学生のやる気向上への支援、学生の精神的支援、失敗を次に活かす指導、学生にモデルを示す指導 は、学生の精神的状態を把握しながらやる気を促す支援に関する内容であり、この4つのサブカテゴリーから、カテゴリー【学生に寄り添う支援】が生成された。サブカテゴリー 知識を看護実践につなげる指導、実習における基礎看護学教育の徹底、学内日の活用 は、学内で学んだ看護学を、実習における看護実践に繋げるための指導に関する内容であり、この3つのサブカテゴリーから、カテゴリー【理論に基づいた指導】が生成された。サブカテゴリー 実習が患者・病棟へ及ぼすメリットと臨床指導者に対するスーパーバイズ は、実習が病棟で行われている看護により影響を与えることに関する内容であり、この2つのサブカテゴリーから、カテゴリー【病棟へのプラスの影響】が生成された（表1）。

学生のインタビュー内容の分析

分析の結果、27のサブカテゴリーから7つのカテゴリーが生成された。以下、カテゴリーを〔 〕、サブカテゴリーを 〃 で示す。

サブカテゴリー 学生にモデルを示す指導、学生の将来に向けた助言、学生が目標とする存在としての臨床指導者の存在 は、教員や臨床指導者が学生に対し看護の専門職としてのモデルを示し、学生の向上心を惹起する内容であり、この3つのサブカテゴリーから、カテゴリー【学生のモデルとしての役割】が生成された。サブカテゴリー 学生と患者・家族の関係調整、学生と臨床指導者の関係づくり、学生・教員・臨床指導者のチーム形成 は、学生と患者や家族、臨床指導者、教員との関係づくりを進め、実習を円滑に促す支援に関する内容であり、この3つのサブカテゴリーから、カテゴリー

【関係性の構築】が生成された。サブカテゴリー 学生と他職種の連携支援、教員と臨床指導者との連携促進、教員間の連携促進は、学生と病院内の看護師以外の他職種、教員と臨床指導者や教員同士の連携を促進し、実習を円滑に進める働きかけに関する内容であり、この3つのサブカテゴリーから、カテゴリー【連携の促進】が生成された。サブカテゴリー 実習時間外で得た患者情報の提供、臨床経験を踏まえた指導、学生のアセスメント力の養成、学生が看護の根拠を考えられる指導、実習記録と連動したケアの指導、患者の個別性を踏まえた関わりやケアの指導は、学生が、患者から得た情報を基に、患者の状態を根拠をもってアセスメントし、個別性の高い看護ケアに繋げるための支援であり、この6つのサブカテゴリーから、カテゴリー【患者の状態把握に向けた支援】が生成された。サブカテゴリー 学生自身が成長を認識できる指導、学生と共に考える指導、学生が質問しやすい実習環境づくり、

学生の精神面の支援、学生の意欲向上への支援、学生の特性に合った個別指導は、学生の精神的な状態を把握しながら、学生のやる気を促す支援に関する内容であり、この6つのサブカテゴリーから、カテゴリー【学生に寄り添う支援】が生成された。サブカテゴリー 看護学の基礎に忠実な指導、看護過程の展開に沿った指導、学内日の活用は、学内における学習をよりよい看護実践に繋げるための指導であり、この3つのサブカテゴリーから、【理論に基づいた指導】が生成された。サブカテゴリー 実習においてのみしかできない経験への支援、タイムリーなケアの調整、学生の病棟の特徴把握の支援は、実習を円滑に進め、学生がさまざまな経験ができるための支援であり、この3つのサブカテゴリーからカテゴリー【実習環境の調整】が生成された(表2)。

臨床指導者と学生からのインタビュー内容から、「関係性の構築」、「連携の促進」、「患者の状態把握に向けた

表1 老年看護学実習における教員と臨床指導者の教育機能(臨床指導者のインタビューより)

カテゴリー	サブカテゴリー
関係性の構築	学生・教員・臨床指導者のチーム形成
	学生のチームワーク支援
	学生と臨床指導者の関係づくり
	学生と患者・家族の関係調整
	実習の雰囲気づくり
連携の促進	学生と他職種の連携支援
	個々の学生の性格・特徴の把握と共有
	教員と臨床指導者の実習目的・指導方針の共有
	教員と臨床指導者の連携促進
	教員の指導後の臨床指導者の関わり
	実習記録の指導における教員と臨床指導者の連携
患者の状態把握に向けた支援	実習開始時における学生への患者に関する情報提供
	実習時間外で得た患者情報の提供
	患者の観察の視点の指導
	学生の気づきへの支援
学生に寄り添う支援	学生のやる気向上への支援
	学生の精神的支援
	失敗を次に活かす指導
理論に基づいた指導	学生にモデルを示す指導
	知識を看護実践につなげる指導
	実習における基礎看護学教育の徹底
病棟へのプラスの影響	学内日の活用
	実習が患者・病棟へ及ぼすメリット
	臨床指導者に対するスーパーバイズ

表2 老年看護学実習における教員と臨床指導者の教育機能(学生のインタビューより)

カテゴリー	サブカテゴリー
学生のモデルとしての役割	学生にモデルを示す指導
	学生の将来に向けた助言
	学生が目標とする存在としての臨床指導者の存在
関係性の構築	学生と患者・家族の関係調整
	学生と臨床指導者の関係づくり
	学生・教員・臨床指導者のチーム形成
連携の促進	学生と他職種の連携支援
	教員と臨床指導者との連携促進
	教員間の連携促進
患者の状態把握に向けた支援	実習時間外で得た患者情報の提供
	臨床経験を踏まえた指導
	学生のアセスメント力の養成
	学生が看護の根拠を考えられる指導
	実習記録と連動したケアの指導
学生に寄り添う支援	患者の個別性を踏まえた関わりやケアの指導
	学生自身が成長を認識できる指導
	学生と共に考える指導
	学生が質問しやすい実習環境づくり
	学生の精神面の支援
	学生の意欲向上への支援
理論に基づいた指導	学生の特性に合った個別指導
	看護学の基礎に忠実な指導
	看護過程の展開に沿った指導
実習環境の調整	学内日の活用
	実習においてのみしかできない経験への支援
	タイムリーなケアの調整
	学生の病棟の特徴把握の支援

支援」,「学生に寄り添う支援」,「理論に基づいた指導」は、臨床指導者と学生に共通するカテゴリーとして抽出された。その一方で、臨床指導者からは、「病棟へのプラスの影響」がカテゴリーとして抽出され、臨床指導者から見ると、実習指導は患者や病棟へプラスの影響があることが示唆された。学生からは、「学生のモデルとしての役割」,「実習環境の調整」がカテゴリーとして抽出され、実習指導には、学生が臨床指導者や教員が行っている看護をモデルとして学ぶ機能があること、そして、実習が円滑に進むように、また、学生にとって効果的な実習が行われるように環境を調整する機能があることが示唆された。

また、臨床指導者からは、「連携の促進」が大きなカテゴリーとして抽出され、臨床指導者は教員、他職種、そして病棟看護師と密に連携し、患者や学生の情報を共有しながら実習指導を行っていることが示された。そして、学生からは、「患者の状態把握に向けた支援」が大きなカテゴリーとして抽出され、受け持ち患者に関する情報提供のみならず、患者のアセスメントに関して、根拠をもった理解を促す指導が大切であることが示された。

教員と臨床指導者の役割

臨床指導者と学生に対するインタビュー内容から抽出されたサブカテゴリーから、「主に教員が担った方がよ

表3 老年看護学実習において主に教員が担った方がよいと思われる役割

教員の役割	サブカテゴリー
学生の性格・特徴の把握	個々の学生の性格・特徴の把握と共有 学生の性格・特徴に合わせた個別指導
看護理論に基づいた根拠ある指導	実習における基礎看護学教育の徹底
	看護学の基本に忠実な指導
	学生が看護の根拠を考えられる指導
	知識を看護実践に繋げる指導
	学生のアセスメント力の養成
	看護過程の展開に沿った指導
	実習記録と連動したケアの指導
学内日の活用	
実習における連携と協働	学生のチームワーク支援
	教員と臨床指導者との間の実習目的・実習方針の共有
	教員間の連携促進
	臨床指導者に対するスーパーバイズ
学生のモチベーション喚起	学生の精神的支援
	学生の意欲向上への支援
	失敗を次に活かす支援

いと思われる役割」,「主に臨床指導者が担った方がよいと思われる役割」, および「分けることが難しい役割」を分類・整理した(表3,表4,表5)。

分類の基準としては、学生の性格や学力等の特徴を把握してはできない役割、および大学で学んだことを実践に結びつける役割は、「主に教員が担った方がよいと思われる役割」として分類した。また、看護師としての実践的な指導の役割、病棟の患者・家族および病院内の看護師や他職種との関係に関する役割、病棟の環境調整に関わる役割は、「主に臨床指導者が担った方がよいと思われる役割」として分類した。そして、そのどちらにも分類することが難しいものを「分けることが難しい役割」として分類した。

その結果、主に教員が担った方がよいと思われる役割として、17のサブカテゴリーから4つの役割が抽出さ

表4 老年看護学実習において主に臨床指導者が担った方がよいと思われる役割

臨床指導者の役割	サブカテゴリー
学生のモデルとしての役割	学生にモデルを示す指導
	学生が目標とする存在としての臨床指導者の存在
	学生の将来に向けた助言
関係性の構築	学生と患者・家族の関係調整
	学生と臨床指導者の関係づくり
患者の情報把握と提供	実習開始時の学生への患者に関する情報提供 実習時間外で得た患者情報の提供
実習における連携と協働	学生と他職種の連携支援 教員の指導後の臨床指導者の関わり
経験に基づいた患者への個別性の高いケア指導	患者の観察の視点の指導
	患者の個別性を踏まえた関わりやケアの指導
	臨床経験を踏まえた指導
学生が実習しやすい環境づくり	学生の病棟の特徴把握の支援
	実習においてのみしかできない経験の支援 タイムリーなケアの調整
病棟へのプラスの影響	実習が患者・病棟へ及ぼすメリット
	継続看護への関わり

表5 老年看護学実習における分けることが難しい役割

分けることが難しい役割	サブカテゴリー
学生の意欲向上への支援	学生自身が成長を認識できる指導
	学生と共に考える指導
	学生が質問しやすい実習環境づくり
教員と臨床指導者の連携	教員と臨床指導者の連携促進
	実習記録の指導における教員と臨床指導者の連携
関係性の構築	学生・教員・臨床指導者のチーム形成 実習の雰囲気づくり

れた。サブカテゴリー 個々の学生の性格・特徴の把握と共有 と 学生の性格・特徴に合わせた個別指導 は、学生の性格や特徴を把握し、個別的な指導に繋げる役割であり、【学生の性格・特徴の把握】と命名した。サブカテゴリー 実習における基礎看護学教育の徹底、看護学の基本に忠実な指導、学生が看護の根拠を考えられる指導、知識を看護実践に繋げる指導、学生のアセスメント力の養成、看護過程の展開に沿った指導、実習記録と連動したケアの指導、学内日の活用 は、学内で学んだ看護理論を実習における看護実践に繋げる役割であり、【看護理論に基づいた根拠ある指導】と命名した。サブカテゴリー 学生のチームワーク支援、教員と臨床指導者との間の実習目的・実習方針の共有、教員間の連携促進、臨床指導者に対するスーパーバイズ は、実習における学生同士、教員と臨床指導者、教員間の連携を促進し、実習目的を達成していくための役割であり、【実習における連携と協働】と命名した。サブカテゴリー 学生の精神的支援、学生の意欲向上への支援、失敗を次に活かす支援 は、学生を精神的に支え実習に対する意欲を向上させる役割であり、【学生のモチベーション喚起】と命名した。

次に、主に臨床指導者が担った方がよいと思われる役割として、17のサブカテゴリーから7つの役割が抽出された。サブカテゴリー 学生にモデルを示す指導、学生が目標とする存在としての臨床指導者の存在、学生の将来に向けた助言 は、学生が将来目指す専門職としての存在を示す役割であり【学生のモデルとしての役割】と命名した。サブカテゴリー 学生と患者・家族の関係調整 と 学生と臨床指導者の関係づくり は、学生と患者・家族や臨床指導者との関係性を構築し、円滑な実習に繋げるための役割であり、【関係性の構築】と命名した。サブカテゴリー 実習開始時の学生への患者に関する情報提供 と 実習時間外で得た患者情報の提供 は、臨床指導者が病棟の看護師として得た患者情報を学生に提供する役割であり、【患者の情報把握と提供】と命名した。サブカテゴリー 学生と他職種の連携支援 と 教員の指導後の臨床指導者の関わり は、実習における学生と看護師以外の他職種、臨床指導者と教員の連携に関する役割であり、【実習における連携と協働】と命名した。サブカテゴリー 患者の観察の視点の指導、患者の個別性を踏まえた関わりやケアの指導、臨床経験を踏まえた指導 は、臨床現場での長い経験

を基にした効果的な指導を行う役割であり、【経験に基づいた患者への個別性の高いケア指導】と命名した。サブカテゴリー 学生の病棟の特徴把握の支援、実習においてのみしかできない経験の支援 と タイムリーなケアの調整 は、学生が学習効果の高い経験を積むための役割であり、【学生が実習しやすい環境づくり】と命名した。サブカテゴリー 実習が患者・病棟へ及ぼすメリット と 継続看護への関わり は、実習が患者や病棟へよい影響を及ぼすための役割であり、【病棟へのプラスの影響】と命名した。

分けることが難しい役割として、7つのサブカテゴリーから、3つの役割が抽出された。サブカテゴリー 学生自身が成長を認識できる指導、学生と共に考える指導、学生が質問しやすい実習環境づくり は、教員と臨床指導者が協働して学生の意欲を促すための役割であり、【学生の意欲向上への支援】と命名した。サブカテゴリー 教員と臨床指導者の連携促進 と 実習記録の指導における教員と臨床指導者の連携 は、教員と臨床指導者の双方が互いに連携をとり、実習における教育効果を向上させていく役割であり、【教員と臨床指導者の連携】と命名した。サブカテゴリー 学生・教員・臨床指導者のチーム形成 と 実習の雰囲気づくり は、教員と臨床指導者の双方が協働して実習のチームづくりをしていく役割であり、【関係性の構築】と命名した。

上記を総合すると、教員の役割としては、「看護理論に基づいた根拠ある指導」が大きな位置を占めていることが示唆された。「実習における連携と協働」は、教員と臨床指導者の双方の役割として抽出されたが、その中において、学生のチームワークづくりは教員が、他職種との連携は臨床指導者が担っていることが示唆された。また、臨床指導者独自の役割として、「学生のモデルとしての役割」、「関係性の構築」、「患者の情報把握と提供」、「経験に基づいた患者への個別性に高いケア指導」、「学生が実習しやすい環境づくり」、「病棟へのプラスの影響」と、数多くの役割が抽出され、臨床指導者が、患者・家族・学生・教員・病院内のスタッフ等、多方面に目を配りながら実習指導を行っている姿が示された。また、「学生のモチベーション喚起」、「学生の意欲向上への支援」といった、学生の精神的な支援に関しては、教員の役割と共に、分けることが難しく、教員と臨床指導者の双方が担っていく役割であることも示唆された。

5. 考察

(1) 個々の学生指導における役割

教員の個々の学生指導における役割としては、「学生の性格・特徴の把握」、「看護理論に基づいた根拠ある指導」、「学生のモチベーション喚起」が抽出された。大学における授業・演習等で、普段から教員は学生と接する機会が多くあり、学生の学力や興味のみならず、性格についても、ある程度把握していると考えられる。教員は、「実習グループがどの段階のどの領域の実習を終えてこの実習に来ているかを臨床指導者に伝え、個人別に実習への期待・不安、自己PRなどが記載された記録を臨床指導者と共有した。このことによって、実習の初期段階で臨床指導者が入れ替わっても、学生を個別的に捉えやすくなった⁸⁾」とあるように、教員が持っている学生の情報を臨床指導者と共有することにより、個々の学生にとって効果的な実習指導が行われると考えられる。

また、「看護理論に基づいた根拠ある指導」は、大学で学修したことを実習に活かすことができるための指導であり、大学での学生の学修状況を把握している教員の役割として抽出された。学生は実習を開始する前に、大学において多くの理論・知識・技術を学び、修得している。しかし、実際に患者を目の前にした時に、表面的なアセスメントやケアしかできず、大学で修得したことが実践に結びつきにくいことが多いと思われる。そのような時、学生が既に持っている知識や技術を引き出すことにより、アセスメントが深まり、根拠ある看護実践につなげていくことが可能になると考えられる。その中で、学生が自ら行った看護実践について、実践した根拠や患者の反応をどのように捉え評価したかを言語化し、1つ1つの看護実践の意味づけを行っていくことにより根拠を明確にしていくことが、教員の大切な役割であると考えられる⁹⁾。

「学生のモチベーション喚起」も教員の役割として抽出された。学生が失敗をした時など、精神的に動揺している時に、学生の性格や特徴等を把握している教員が学生の話をしつくりと聴き、学生の失敗をその後の看護に活かすような関わりが必要であり¹⁰⁾、教員が担う方が相応しい役割と考えられた。

次に、臨床指導者の個々の学生指導における役割としては、「学生のモデルとしての役割」と「経験に基づいた患者への個別性の高いケア指導」が抽出された。学生は、看護師のモデルとしての臨床指導者の看護実践を目

の当たりにすることにより、自己の看護に足りないこと、修正が必要なこと、勉強をしないといけないこと等に気づくことができる。また、モデルの存在が、学生が看護師を目指す上でのモチベーションの向上につながることも考えられる。患者に関する個別性の高いアセスメントと、経験に裏打ちされた知識と看護技術に基づいたケアが、学生にとっては看護のプロを目指す上での意識の向上に繋がっていると考えられた。

また、「学生の意欲向上への支援」は、どちらにも分けることが難しい役割として抽出された。学生がどのように実習を進めたらよいかと悩んだ場合や、患者のアセスメントや関わりにおいて壁にぶつかった時などには、共に考え、さまざまな疑問に答えてくれる相手が必要となるが、それは、教員と臨床指導者が臨機応変に対応していく必要があると考えられた。

(2) 実習の調整における役割

実習の調整において、主に臨床指導者が担った方が相応しい役割として、「患者の情報把握と提供」と「学生が実習しやすい環境づくり」が抽出された。患者情報に関しては、基本的には学生自らが収集するものである。しかし、カルテや看護記録に記載がされてなく、患者から聞くことも難しい情報に関しては、患者のことをよく把握している臨床指導者が提供する必要がある。特に、実習時間外の夜間や休日の情報は、臨床指導者が把握し、学生や教員と共有していくことが、円滑な実習につながると考えられる。また、学生が実習病棟における看護の特徴を把握する、病棟看護師と連携したケアの調整を行うなど、実習における病棟の環境調整は、病棟の状況を把握している臨床指導者でなくてはできないことが多いため、主に臨床指導者の役割として考えられた。

「実習における連携と協働」は、教員の役割と共に、臨床指導者の役割としても抽出された。また、「教員と臨床指導者の連携」に関しては、分けることが難しく、教員と臨床指導者の双方で担う役割として抽出された。教員は、実習において学生を教育する立場として、目的に沿って実習が遂行されるように臨床指導者や実習に関わる全ての教員と連携をとり、学生を指導していく必要がある。その一方で、臨床指導者は、実習が円滑に進むように、また、教員の行った指導に従って学習が深まるように他職種と連携をとり、実習内容を調整していく必要があると考えられる。実習は、教員、臨床指導者等、

多くの看護師が学生と関わりながら指導を進めていくことになるが、それぞれの教員や臨床指導者は、異なった看護観や実習観を持っていると考えられる。また、臨床指導者にとっては、教員が考える教育の目的や意図が理解できていないと、学生に介入しすぎることや、必要な指導を躊躇してしまうことにもなりかねないと考えられる。そのように、異なる価値観や考え方を持つ者が実習教育に関わる際は、実習前や実習中の、密な打ち合わせやコミュニケーションが必要であり、教員と臨床指導者がお互いの役割を認識し尊重しながら、実習指導の内容や方法を検討していくことが必要であると思われる¹¹⁾¹²⁾。

「関係性の構築」は、臨床指導者の役割と共に、分けることの難しい役割としても抽出された。臨床指導者は、主に患者・家族と学生のつなぎ役としての役割を担うと共に、臨床指導者自身も学生と関係性を結び、臨床指導者と学生の双方にとってコミュニケーションがとれ、指導がしやすい環境づくりが必要であると考えられる。その一方で、患者に対してより良い看護を提供していくためには、学生・教員・臨床指導者が一つのチームとして関係性を結ぶことが必要であり、そのために、教員と臨床指導者が連携を取りながらチームづくりをしていくことも大切であると思われた。

(3) 実習が病棟へ与える影響

臨床指導者の役割として、「病棟へのプラスの影響」が抽出された。病棟にとって、実習を行うことは、病棟の看護に対する意識が高まると共に、新たな気づきを得られることも考えられ、さまざまなメリットをもたらす可能性がある。また、学生が計画し実践した看護により、患者の回復や生活の質の向上が図られた場合、実習が行われていない夜間や休日、また実習が終了した後に、その看護を継続して実践することが、患者にメリットをもたらすことも考えられる。そのような場合、学生も自信をつけることができると共に、病棟のスタッフも実習を受け入れたことを肯定的に受け取ることができる。臨床指導者は、実習が病棟にプラスの影響をもたらすために、病棟スタッフと連携を取りながら実習を進めていく必要があると考えられる。

引用文献

- 1) 天賀谷隆, 遠藤淑美他編: 実習指導, 精神看護出版, 2011, p.14

- 2) 矢野章永編: 看護学教育臨地実習指導者実践ガイド, 医歯薬出版, 2012, pp.5-8
- 3) 屋宜譜美子, 目黒悟編: 教える人としての私を育てる - 看護教員と臨地実習指導者 -, 医学書院, 2011, pp.49-56
- 4) 福井美貴, 末安民生, 野末聖香: 精神看護学における臨床実習指導者の抱える困難 - 大学教育に焦点を当てて -, 日本精神保健看護学会誌 Vol.14 No.1, 2005
- 5) 古厩裕美: 看護臨地実習施設が本学看護学部教育に求めるもの - 看護臨地実習施設の職場長として見えたこと -, 聖隷クリストファー大学看護学部紀要 No.18, 2010
- 6) 中村博文, 渡辺尚子: 精神科における臨地実習指導の不安・困難についての分析, 精神科看護 Vol.40 No.1, 2013
- 7) 細田泰子, 山口明子: 実習指導者の看護学実習における指導上の困難とその関連要因, 日本看護研究学会雑誌 Vol.27 No.2, 2004
- 8) 田中美延里, 安酸史子: 実習環境を整えるための取り組み - 臨床指導者との協働をめざして -, 精神科看護 28 (3), 2001, p.49
- 9) 佐川朋美, 坂入和也: 精神看護学臨地実習における当院の指導体制と実習指導者の役割, 看護教育第 41 巻 5 号, 2000, p.382
- 10) 主濱治子, 刀根洋子, 鈴木祐子: 母性看護学実習において看護学生が予期せぬ状況を体験することに対する実習指導者の関わり, 日本ウーマンズヘルス学会誌 Vo.11, 2012, p.60
- 11) 田中美延里, 安酸史子: 実習環境を整えるための取り組み - 臨床指導者との協働をめざして -, 精神科看護 28 (3), 2001, p.50
- 12) 福井美貴, 末安民生, 野末聖香: 精神看護学における臨床実習指導者の抱える困難 - 大学教育に焦点を当てて -, 日本精神保健看護学会誌 Vol.14 No.1, 2005, p.94